



東口 隆弘 議員
(政清会)



平成25年6月に、国はバイオマス資源を活用したエネルギーの地域循環、産業創出を目指す「バイオマス産業都市」に十勝を認定した。

近年、バイオガスプラントには、自治体をはじめ、JAや民間による取組が展開されている。

バイオガスプラントは、従来、費用をかけて処理をしていた「ふん尿」を有効活用し、発電や排熱水、消化液の活用などを通じて、農村環境の向上や地球温暖化の防止、地域経済の活性化など、有用性が報告されている。

町は、28年度予算に、「家畜ふん尿バイオマス導入調査委託料」600万円を計上し、実現に向けた第一歩に立たれたものと思う。バイオガスプラント建設に向け町の考えを伺う。

(1)管内のバイオガスプラント先行事例は。

(2)地域新エネルギービジョンに位置付けるバイオマス発電等の活用に向けた取組は。

問 バイオガスプラント建設に対する町の考えは

答 農業生産力や農村環境の向上に寄与できる

(3)昨年JA忠類で行われた「家畜バイオマス勉強会」での意見要望は。

(4)乳牛飼養頭数や酪農家の現況から、現時点において、プラント建設の実現性は。

町長(1)士幌町では、平成15年度に町が実証施設として個別型プラントを3基整備し、24年度には士幌町農協が4基整備した。鹿追町では、平成19年度に集中型プラント、堆肥化プラント、コンポスト化プラントの三つの施設からなる鹿追町環境保全センターを町が

整備している。さらに本年春からは、2基目の集中型として、瓜幕地区に国内最大級のバイオガスプラントを町が整備し稼働している。このほか、大樹町には、農事組合法人による集中型プラントが、広尾町には民間事業者による個別型プラントが設置され、十勝管内で21基が稼働している。

(2)平成17年度に幕別町地域新エネルギービジョンを策定し、検証の結果町内にはバイオガスプラントの導入はなかったが、平成27年度以降において、乳牛200頭規模の個別型プラントを3基導入する長期の目標を掲げている。

平成24年度に十勝バイオマス産業都市構想の検討をし、各農業協同組合、森林組合や製材会社等に構想の説明やバイオマス利活用の意向調査を行った。忠類地域においては、昨年7月に忠類農協の理事を対象に勉強会を開催したほか、11月には町内の全農業者を対象に研修会を開催した。

(3)個別型、集中型のメリット、デ

メリット、売電の可能性やプラント稼働の収支のほか、地域での意識向上を図ることが必要との意見があった。

(4)本町では、飼養頭数の点から、個別型、集中型のいずれも実現の可能性は高いと考えている。本年度、家畜ふん尿バイオマス導入調査を7月から実施し、家畜ふん尿の現状などを把握するための基礎調査や、施設規模や収支計画、消化液等の利用検討、北海道電力への売電協議など、施設整備に係る可能性の調査を行い、地域の皆さんと相談し、進めて行く。

再質問 幕別町が主導、先導を取りながら、農業者だけでなく、町民への深い理解を得ることが大切である。バイオガスプラント建設は未知なる可能性を持つと考えるが、町としての可能性は。

答 この事業は、基本的には民活で、農業の経営の範疇の中でやっている。観光振興、土づくりなどについて調査をし、インシャルコストとランニングコスト全てを含め、トータルで施設整備をしたときにどういった内容になっていくのかを検討した中で、町の役割を果たしていきたい。



鹿追町バイオガスプラント
(写真は鹿追町提供)